

海運<経営・全般>

2021年11月17日

**《連載》保険ブローカーに聞く①
海外大手と提携、情報提供力に強み
J E I B ジャパン**

昨年から今年にかけて大型の海難事故が相次いでいる。船主が損害賠償後も事業を継続できるようにするP & I 保険について、来保険年度では保険料水準の値上げが見込まれるほか、国際P & Iクラブグループ（IG）手配している再保険の更改も控えており、こちらも値上げの見通しだ。このような状況下、保険ブローカーの持つ情報や知見、ネットワーク、さらに契約時の交渉力がこれまで以上に注目を集めている。保険ブローカーはP & I 保険だけでなく、船体保険なども絡めた複合的なアドバイスを行うことができる人材を揃えており、多様なサービス展開も見せる。日本に事務所をおく保険ブローカー4社にP & I 保険の来保険年度の交渉に向けた見通し、自社のサービスの現状や今後の展開などを聞いた。

J E I B ジャパンは、保険ブローカーとして世界4位の英国・アーサーギャラガー社とパートナーシップを組んでサービスを展開。同社と組むことで船舶運航に関するリスクマネジメントに関する知見や情報提供力に関して強みを持つ。特に最近はリスクマネジメントの一環としてサイバーセキュリティに関するサービスを積極的に展開している。同社の小田洋社長、河合寿宜船舶営業部長がインタビューに応じた。質疑応答の概要は以下のとおり。

— 現在のP & I 保険に関する事業の概要について教えてほしい。

「保険ブローカーとしてP & I 保険の取扱高が世界4位の英国・アーサーギャラガー社とパートナーシップを組んで、サービスを展開している。現在の人員は6人。アーサーギャラガー社と組むことで、世界中のすべてのP & I クラブのシニアマネジメント層からアンダーライター、クレーム処理担当まで幅広く関係を構築している。コロナ禍でいまは中止しているが、毎年日本でセミナーを開催し、顧客に対して積極的に情報提供を行っている」

— P & I 保険の来保険年度の交渉をどうみているか。

「各クラブともにP & I 保険自体の保険引受損益率をみる指標であるコンバインド・レシオの悪化が続いている。前保険年度は平均120%程度で、これを保険料の一律値上げ（GI）で補っている状況だ。ただ、コンバインド・レシオからすると、2割赤字なのを取り戻そうとすると、GIを仮に10%としても2年かかることになる。当保険年度はさらにコンバインド・レシオが厳しくなっており、来保険年度はもちろん、あと数年は2ケタ程度のGIでの交渉となりそうだ」

— そうした中、保険ブローカーが果たす役割をどう考えているか。

「これまで以上に果たすべき役割が大きくなっていく。実際当社でも、ここ数年で取扱実績は増加傾向にある。保険ブローカーが交渉を行う際にはP & I クラブ、船主それぞれの財務状況などを照らし合わせて客観的に判断し、船主に対して最適なクラブを紹介するかたちとなる。その客観性こそ保険ブローカーの存在意義だが、高い情報収集力を背景に、顧客のフリートサイズ、船舶のタイプ、トン数などを客観的にみて、ベストアドバイスを提供していくとともにクラブとの交渉を船主にとって有益になるよう行っていく」

— 現在特に注力している、あるいは顧客から引き合いが多いサービスは。

「サイバーセキュリティに関する問い合わせが増えており、新しい引き受け案件として“マリンサイバー”への取り組みを強化している。現在はまだ具体的な案件を取り扱うまでには至っていないが、今後船舶についてもサイバーアタックに起因する事故だと証明する必要が生じるケースが増えてくるかもしれない。そういった想定をした上で取り組んでいる顧客からの質問に対して、諸々対応している状況だ」

— 具体的なサービスの内容は

「われわれは、マリンサイバーに関する保険商品を販売する会社と提携している。その商品には、リスク保障だけでなく、船員のバックアップ、回復のためのアシスト、最適なIT機関と提携するなど付帯サービスが充実している」

(この連載は、高木宏治が担当します)



小田社長



河合部長

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.